

平成27年度

循環器病看護エキスパートナース研修を開催して

平成27年10月19日から10月28日の8日間、国立病院機構九州グループ主催の循環器病看護エキスパートナース研修を当院で開催しました。循環器病看護の質向上を図るため、個別性をふまえた水準の高い看護実践のできる人材育成、および循環器病看護においてリーダーシップを発揮できる人材育成を目的として研修を行いました。研修生は、九州管内10施設から循環器病看護の経験が3年以上であり、かつ循環器病看護実践の役割モデルとして将来期待できる13名が参加しました。

研修内容は、循環器病の病態、治療、検査およびそれに伴う看護について、医師や薬剤師、検査技師、理学療法士、認定看護師など多職種の講師により、実践に即した講義や、フィジカルアセスメントの演習を行いました。それを踏まえて、手術室、カテ室、MSC等の見学と病棟実習を行いました。講義はすべて公開講座とし、鹿児島県内の地域医療連携機関からも参加があり、熱心に学ばれる姿からこの研修に対する関心の高さが窺えました。

昨年、とても好評だった山口大学大学院医学系研究科の、山勢博彰先生による講演を今年も「救急・重症患者と家族のための心のケア」のテーマで開催しました。講演の前日には当院の看護師を対象にした特別講演を開催していただき、救急時の患者はもちろん、その家族にも心のケアが必要であることを論理的に学ぶことができました。

初日は当院職員も参加し、天文館で懇親会を行いました。研修生には自己紹介や鹿児島の印象、それぞれの当地自慢をもらい、情報交換をしながら楽しい時間を過ごすことができました。

研修後のアンケートでは、「普段見学することがなかなかできない部署を見学することができ、それぞれの部署で看護師はどのような点に気を付けているかなど知ることができた。」「講義では、多職種の方から最近の詳しい情報が聞けて、とても勉強になった。」「多施設の看護師と交流することで刺激を受け、今後自分も頑張っていこうと思った。」等の感想が聞かれました。これらの意見を踏まえて、来年度もさらに充実した研修を企画したいと考えております。

最後に、研修生の皆様が、今回の研修で学んだことを看護実践の場で還元し、循環器病看護エキスパートナースとして活躍されることを期待しております。

(文責：東4階病棟看護師長 片平 智子)



■お問い合わせ先 独立行政法人 国立病院機構 **鹿児島医療センター** (循環器・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号
代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域連携】 蘭田・谷口・田上・吉永・鷺頭・吉留・山口・櫻木・宮崎
【がん相談】 松崎・森・水元・木ノ脇・原田・杉本
フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476
※休日・時間外は当直者で対応します。



連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター(循環器・脳卒中・がん専門施設)

2015.12 vol.116

鹿児島医療センター 地域医療連携運営委員会・懇談会を開催して

去る10月21日、城山観光ホテルにて第14回鹿児島医療センター地域医療支援病院運営委員会および第4回の地域医療連携懇談会を開催しました。

地域医療支援病院運営委員会では、外部より鹿児島県医師会 野村秀洋副会長、鹿児島市医師会 新名清成副会長、鹿児島県薬剤師会 上野泰弘副会長、鹿児島市消防局長 山下裕二様、元南日本新聞社監査役 大野達郎様の5名の委員の方々にご出席いただきました。

議題として、

- ① 委員会規定
- ② 地域医療支援病院紹介率・逆紹介率の推移
- ③ 救急車搬送数および救急患者取扱件数
- ④ 大型医療機器共同利用実績
- ⑤ ドクターヘリ受入れ件数
- ⑥ 地域の医療従事者向け研修実績
- ⑦ 登録医一覧 等につき報告しました。

質疑応答では、各委員の先生方から有益なご質問やご意見をいただきました。懇談会には、院外から156名(医師60名、看護師33名、他のスタッフ63名)、外部委員4名、院内より118名、計278名の地域医療を支えている多職種のスタッフに多数出席していただきました。

今回は、花田修一院長に開会の挨拶のあと、スライドにて当院の現状と将来構想についてお話していただきました。現在の東病棟等は昭和56年に建てられたものであり、外来と病棟が手狭になっているため改修工事をして病院機能のアップを図ること、またハイブリッド手術室の準備をすすめ、最先端の医療が提供できる体制を目指すことなどのお話がありました。

第二部はメディカルサポートセンターから二人、水元玲子 がん専門相談員/MSWIには、『がん相談支援センターについて』、吉留由希乃 MSWには、『身寄りのない患者様との関わりから考えること』の演題で発表していただきました。

引き続き、野村秀洋先生に乾杯の挨拶をしていただいた後意見交換会に入りました。会食中は、当院で作成しました各科・各病棟・各部門の活動をビデオで流しました。各病院や医療関係の方々とは活発に意見交換ができ、当院の「これからの計画について院長のお話を聞くことができ良かった」とのご意見もいただきました。顔の見える地域医療連携を目指している会として有意義な時間であったと思われました。

初めて参加していただいたスタッフも含め、今回も多くの先生に出席して頂きました。至らぬ点が多々あったことと思いますが、メディカルサポートセンターは今後なお一層地域の医療施設との連携を深めていきたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくご指導、ご鞭撻のほどお願いいたします。

(文責：メディカルサポートセンター長 蘭田 正浩)



「第64回おはら祭り」に参加して



11月3日に開催されたおはら祭りに今年は看護学校生1、2学年全員参加という形をとり147名で参加しました。1年生は今年入学して半年以上経過し、この学校に慣れ始めてきた頃に先輩である2年生と一緒に鹿児島県の伝統的な祭りであるおはら祭りに参加することで、他学年との交流が深められたと思います。2年生も9月の実習の直後から始まる踊りの練習と同じ時期に重なる学校祭の主導的な立場の間で、練習の参加が難しいことも多かったです。しかし、時間を見つけては練習に参加をしてくれ、協力もしてくれました。

本番においては晴天に恵まれ、この時期には珍しく暖かい気温でした。始まる前からおはら祭りの赤い法被を着て、みんな楽しそうにしている姿があり、これまで準備を行っていた私たちからすると、その姿を見るだけでもこれまでの苦労が報われる気がしました。私たちの学校の後ろの団体が鹿児島医療センターということもあり、踊りの途中で学校長である花田先生にも私たちの列に参加していただき、一緒に踊ることができました。踊りが終わるころにはみんな汗をかきながら、達成感に満ちあふれているようでした。

おはら祭りの参加の目的が地域活動に貢献すると共に学生間の親睦を図るということでしたが、1、2年生全員参加にすることでチームとしての団結力の大事さを実感することができました。また、普段は話せないような人と話す機会にもなったと思います。また、おはら祭りは鹿児島の伝統的な祭りであり、それに参加することで地域の活動にも貢献できたと思います。今回のおはら祭りへの参加を通して、団結すること・協力すること・達成することについて実感することができました。これからもこれらの大切さを忘れずに学習や実習、自治会活動に励んでいきたいと思ひます。

(文責：鹿児島看護学校おはら祭り実行委員長 田中 徹弥)

11月2日(月)、3日(火)の2日間、鹿児島市にて南九州最大のお祭り「第64回おはら祭り」が開催されました。当院は11月3日の本祭に、医師や看護師などの多職種約150名で参加しました。今年の本祭への参加ということもあり、本番に向けての3回の合同練習には、多数の職員の方が参加しました。当初は、なかなか踊りが揃いませんでしたが、練習をしていく中で参加者同士が踊りのコツを教え合ったり、声を掛け合うことで徐々に踊りが揃っていき、当院の団結力を改めて実感するとともに、職員のおはら祭り参加に対する意欲の高さを感じました。

当日はまず院内で記念撮影を行い、1階フロアで入院患者さんへ踊りを披露した後、会場へ向かいました。今年天候に恵まれ、「第30回国民文化祭2015」と開催時期が重なったこともあり、踊り連・観光客が例年以上に多く、当院150名の大踊り連も昂揚感とやる気をもって踊りました。市役所前から山形屋前のメイン通りまで、たくさんの方々の声援を頂き、地域に根差した鹿児島医療センターの一員として、笑顔で踊ることができました。また踊り終わった後は、全員で成し遂げた達成感を得ることができました。

今回、おはら祭りに参加して、鹿児島医療センター職員のチームワークや団結力を感じることができました。そして何より院内でお披露目した時の患者さんの笑顔を思うと、色々苦労したことも吹き飛び、また来年も参加したいと思ひました。

(文責：サービス向上委員 看護師 藤崎 佑貴子)



看護学校祭「愛祈祭」を終えて

今年の第22回愛祈祭は、「ONE LOVE～つなげよう!ひとつの愛～」というテーマのもと開催されました。愛祈祭を通して学生個々の持つ思いやりを集約し、地域の方々とかかわることで感謝の心を伝えたいとの思いを込めました。愛祈祭の準備は想像以上に大変で、学生は学校生活が忙しい中で愛祈祭前日まで準備に励みました。しかし、その準備の中で学生同士、また教員にも協力してもらい、チームとして活動することの重要性などを学べたのではないかと思います。

当日は132名の方に来場していただきました。体育館では、学習発表・合唱・ピアードバンド・個人発表を行い、学内では、バザー・喫茶・手浴・AEDの説明・健康チェック・献血・レストランを行いました。学習発表では、認知症・COPD・糖尿病・ロコモティブシンドローム・脂肪肝・誤嚥について発表し、発表時、会場全体でリズムに合わせて体操をしたりなど、テーマである「つながり」を感じることができました。当日はあいにくの雨でしたが、いつもの学校にはない賑やかさがあり、学校全体で準備してきた催し物を地域の方々、学生、職員も楽しんでいただくことができたのではないかと思います。

この愛祈祭を通して全員で協力すること、チームとして活動することを学んだので、今後3年生は国家試験に向けて、1・2年生は実習に向けて、学年ではなく学校全体で協力し励んでいきたいと思ひます。

(文責：愛祈祭実行委員長 有田 和弥)

